

平成20年度三好市一般会計予算 243億2258万4千円

平成20年度 三好市 当初予算

平成20年度三好市当初予算が、三好市議会3月定例会において承認されました。

歳入予算では景気の低迷や人口減による減収が見込まれ、歳出においても借入金返済や生活保護費などの増加が見込まれており、引き続き厳しい台所事情となっております。このため平成20年度予算では、人件費等において前年度比マインス予算とし、従来から実施されている事業についても、目的・効果・緊急性・将来の三好市に及ぼす影響を総合的に検討し、慎重な予算配分としています。

主な事業としては、平成19年度から実施している池田中学校統合事業、新規事業としての三好市民文化祭の開催、企業誘致のための調査業務、ふれあい紅葉センター改装工事等を計上しています。

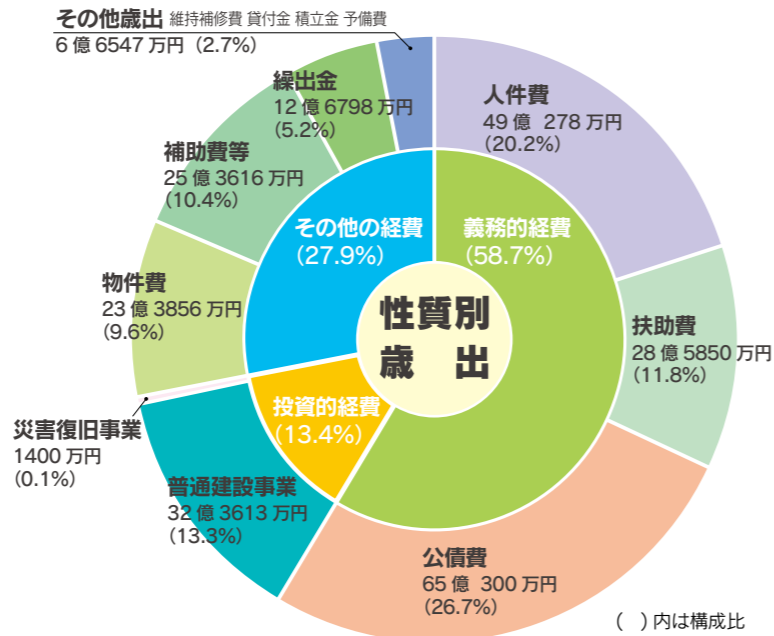
また、本市では多額の借入金返済が台所事情を苦しめている要因となっていることから、利払いを抑制するために高利率借入金を低利率のものに借り換えたり、銀行からの借入金を繰り上げ償還して将来の借入金返済の低減を図る一方、将来のまちづくりに備えた貯蓄を始め、長期を見ずえた予算編成としています。

【用語解説】

まちづくり基金積立

平成19年度より毎年5億円、合併特例債を活用して三好市まちづくり基金に積み立てています。

5億円のうち95%(4億7500万円)については借金(合併特例債)を借入するものですが、償還の際70%が地方交付税に算入されるため、実際には1億8000万円程度のお金を用意すれば5億円の貯金ができるという非常に有利な財政支援となっており、最高32億8430万円まで積み立てすることができます。



義務的経費(人件費・扶助費・公債費)は142億6428万円、前年度より4.1%の増となり歳出総額に占める割合は58.7%で高い比率を占めており、前年度より0.6ポイント上がっています。これは人件費2.2%の減、扶助費1.5%の増、公債費は既発債の元利償還金や繰上償還金の増で10.6%の伸びとなっているためです。

投資的経費(普通建設事業・災害復旧事業)は、32億5013万円、前年度より13.4%の増となり歳出総額に占める割合は13.4%で1.2ポイント上がっています。主な事業は池田中学校統合事業(9億7134万円)、市道及び林道の道整備交付金事業(5億3610万円)、道整備事業費(5億4479万円)となっています。

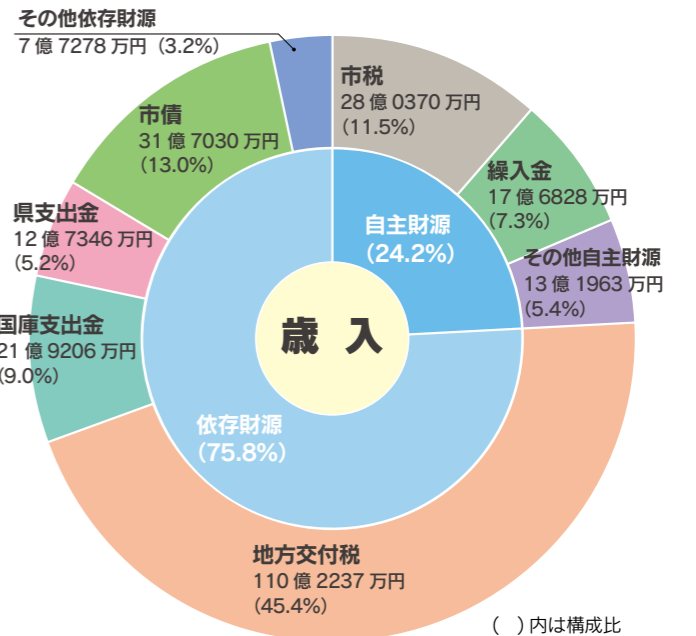
その他の経費は、68億817万円、前年度より2.7%の減となり歳出総額に占める割合は27.9%で前年度より1.8ポイント下がっています。内訳は、物件費が4.8%の減、補助費は後期高齢者医療が平成20年4月に始まることによりその負担金(4億5091万円)が増えたことが主な要因で、14.4%の増となっています。また繰出金は、後期高齢者医療への移行により老人保健特別会計への繰出金が4億2195万円減っていることが主な要因で2.3%減となっています。

積立金は、合併特例債を活用しての基金積立(5億円)が主なもので0.8%の増となっています。

一般会計性質別歳出

歳入の内訳

項目	予算額	対前年比
市税	28億370万円	▲2.5%
自主財源	17億6828万円	34.4%
繰入金	17億6828万円	34.4%
国庫支出金	21億9206万円	9.0%
国庫支出金	21億9206万円	9.0%
地方交付税	110億2237万円	▲0.8%
地方交付税	110億2237万円	▲0.8%
市債	31億7030万円	11.4%
市債	31億7030万円	11.4%
その他依存財源	7億7278万円	▲7.9%
その他依存財源	7億7278万円	▲7.9%
合計	243億2258万円	3.2%



歳入の11.6%を占める市税は28億370万円、前年比2.5%の減となっています。歳入で最も大きな比率を占める地方交付税は110億2237万円と0.8%の減、財源不足を補うために基金から繰り入れる繰入金は17億6828万円と34.4%の増となっています。

上のグラフでおわかりのとおり本市の財政構造は、市税などの自主財源は全体の4分の1未満で、残りの4分の3を地方交付税や国・県の補助金、市債などの依存財源に頼っている状況となっています。

しかし本市が依存するこれらの財源は、今後継続して減少することが予想されており、引き続き慎重な財政運営が求められています。

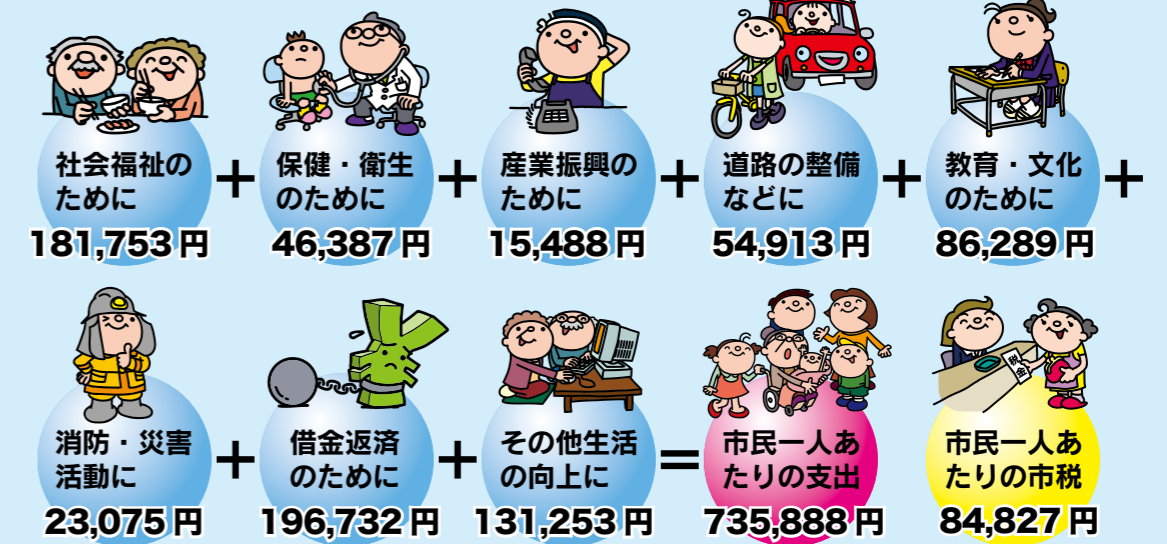
一般会計歳入

平成 20 年度当初予算に計上された主な事業



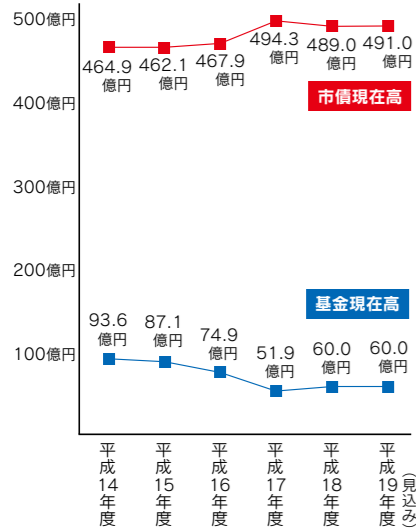
一般会計	
総務費 山城川口会館建設事業	00 億 3980 万円
農林水産業費 農道整備事業	01 億 6074 万円
農林水産業費 林道整備事業	01 億 6163 万円
商工費 東祖谷モノレール増設工事	00 億 1850 万円
商工費 ふれあい紅葉センター改装工事	00 億 4512 万円
土木費 市道整備事業	06 億 9225 万円
消防費 防火水槽新築工事 (5 基)	00 億 2000 万円
教育費 池田中学校スクールバス購入事業 (3 台)	00 億 2727 万円
教育費 池田中学校統合事業	09 億 7134 万円
教育費 西祖谷かずら橋架け替え工事	00 億 1260 万円
教育費 池田球場観覧席上屋根設置事業	00 億 1020 万円
公債費 繰上償還	04 億 3062 万円
特別会計	
ケーブルテレビ事業費 加入者系整備事業	10 億 2925 万円
簡易水道事業費 山城川口簡易水道拡張事業	1 億 1180 万円
簡易水道事業費 三野簡易水道改良事業	00 億 8625 万円
上水道事業費 上水道老朽管更新事業	00 億 8200 万円

平成 20 年度予算で三好市民 1 人当りに使われるお金は…



目的別歳出の額を平成 20 年 4 月 1 日現在の人口 (33,052 人) で割ったものです

基金と市債の推移



市債 (借金) と基金 (貯金) の現在高

平成 19 年度末の市債残高は 490 億 9931 万円の見込みで、本来 21 年度に実施予定であったケーブルテレビ整備事業の前倒し等により前年度比 8 億 2725 万円程度の増となっております。
基金現在高は 60 億 27 万円で前年度比 563 万円の減と見込まれています。

特別会計

井内財産区	377 万円
ケーブルテレビ事業	11 億 8134 万円
住宅新築資金	607 万円
国保 (事業)	44 億 1442 万円
国保 (直診)	2 億 517 万円
老人保健	6 億 8902 万円
後期高齢者	4 億 3316 万円
特養長生園	1 億 8842 万円
浄化槽事業	1 億 4374 万円
農業集落排水事業	2967 万円
土地取得事業	300 万円
給食事業	1 億 4532 万円
簡易水道事業	6 億 8507 万円
井川スキー場	2 億 2310 万円
水道事業会計	3 億 5006 万円
病院事業会計	7 億 0591 万円

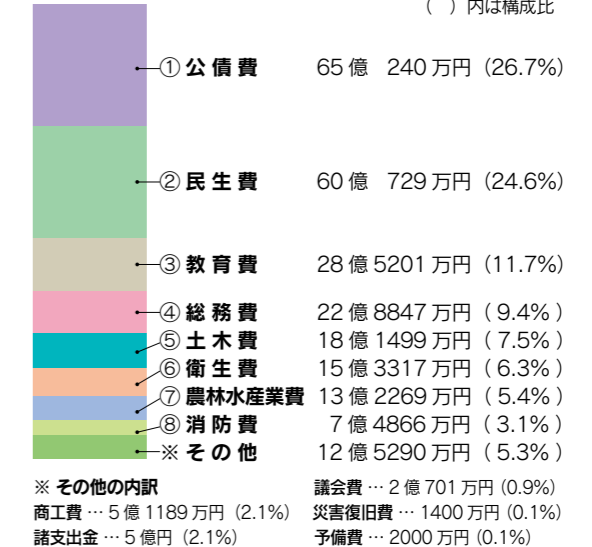
特別会計

ケーブルテレビ事業特別会計は、前年度比 51.4% 減の 11 億 8134 万円の計上です。内訳としてケーブルテレビ運営費並びに三野・井川地区のケーブルテレビ整備事業を予定しています。
老人保健特別会計は、後期高齢者医療制度の移行に伴い前年度比 88.4% 減の 6 億 8902 万円の計上です。
簡易水道事業特別会計は 6 億 8507 万円の計上で、三野地区と山城地区の改良工事 1 億 9806 万円を計上しています。
後期高齢者特別会計は、後期高齢者医療制度の移行に伴う平成 20 年度からの新設の特別会計で、広域連合への納付金など 4 億 3316 万円を計上しています。

目的別歳出の内訳

項目	予算額	対前年比
議会費	2 億 701 万円	▲ 1.9%
総務費	22 億 8847 万円	▲ 5.0%
民生費	60 億 729 万円	0.7%
衛生費	15 億 3317 万円	▲ 16.4%
農林水産業費	13 億 2269 万円	▲ 12.1%
商工費	5 億 1189 万円	3.3%
土木費	18 億 1499 万円	35.3%
消防費	7 億 4866 万円	▲ 2.5%
教育費	28 億 5201 万円	8.8%
災害復旧費	1400 万円	▲ 7.8%
公債費	65 億 240 万円	10.6%
その他歳出	5 億 2000 万円	微減
合計	243 億 2258 万円	3.2%

予算額順による目的別歳出



歳出を目的別に分類すると、最も歳出額が多いのは、借金返済のために使われる公債費、続いてお年寄りや子ども、体の不自由な人に対する福祉を主とした民生費となりました。
道整備交付金事業や地域再生中心市街地地区整備事業が含まれる土木費、池田中学校統合建設費等が含まれる教育費が大幅な増額となりましたが、選挙費が減となった総務費、前年度火葬場整備を行った衛生費、中山間地域総合整備事業となった農林水産業費などが減額となっています。
公債費が大幅増となっている要因は、民間資金及び高利率の政府資金をそれぞれ繰上げ償還することによるものです。

一般会計 目的別歳出